



管理職と教員に「学校を改革しなければならない」と合意が取れるなら、学校改革のツールとなる(大阪府・公立高校・進路指導担当・60代以上)

あえて立ち止まり、自分たちや生徒、学校を見つめ直すプロセスが大事だと思います。それを避けて、校訓や既に作成済みの「目指す学校像」などを切り貼りするようでは、誰にとっても納得できるものにならない。**公表されたものを比較すると、学校としての熱量を見ることができると思う**(新潟県・公立高校・学年主任・40代)

「こうした生徒を育てたい」「この学校はこういう学校だ」という感覚は、実は人によって違います。言語化することで確認できるのは良いこと。ただし、一回作ったものでも検証が必要です。一度手間をかけて作ってしまうと、学校現場ではそれがずっと生きることがあります。**その都度、みんなで考える。作ることそのものよりも「考える過程」に意味があるのではないか**と思います(青森県・公立高校・校長・50代)

校外に対しては、改めて学校の姿勢を示すことで中学生の学校選びに役立つほか、自治体や企業等と外部連携を図るうえで、協力関係が築きやすくなる。**スクール・ポリシーを示すことで、外部の方も、どの学校にアプローチすれば良いのかがわかりやすくなる**(山形県・公立高校・進路指導担当・40代)

Question 先生方へ、ご意見を聞いてみました。

高校の目指す姿を「あえて言葉で表し、共有し合う」ことでどんな効果が期待できるでしょうか?

漠然とした文字だけの状態から、**具体的にどのよう**に生徒を指導していくか、再考するきっかけとなる(宮城県・私立高校・50代)

「言葉で表し、共有し合う」ことそのものよりも、そこに至る過程で教員や生徒や保護者で議論し合えば、**「自分たちが学校を作り、より良くなっていくのだ」という当事者意識が生まれるのではないか**(長野県・公立高校・クラス担任・50代)

中学生が受験校を選ぶ一つの参考になり、高校入学前から自らのキャリア形成を考えるきっかけとなる。保護者や地域の方々に対して、本校の教育活動への理解を深めてもらう契機となる。また、働き方改革の側面から考えたときに、高校として目指す生徒像に照らし合わせて、必要な業務とそうでない業務を検討し、無理のない学校経営を実現することができると思う(沖縄県・公立高校・クラス担任・30代)

具体的、かつ簡潔に示すことで、**ますます激化する生徒募集にも大きく影響する**と思います。中学生や保護者、地域から選択される学校であるためには、魅力あるスクール・ポリシーの設定は重要な項目(北海道・公立高校・教務担当・50代)

学校が育成する資質・能力と、生徒自身が育成したい資質・能力の**ミスマッチを減らすことができる**(福岡県・私立高校・教務主任・40代)

コロナ禍で行事のあり方が変わるなか、行事をやる意味や意義などを考え、**行事の精選をする際の基準となる**(千葉県・公立高校・学年主任・40代)

あなたはどのように考えますか?

言葉にすることによって、各高校の方向性の違いがはっきりすると思う。**熟語が3つ**というような校訓もよいが、**抽象的すぎる**。「スクール・ポリシー」という文章にすることで、**特徴が明確になるのではないか**。なんとなく伝統だと言われていたものが、浮き上がってくる気がする(岡山県・公立中高一貫校・60代以上)

目指す方向性を揃え、共有し合うことで、一人では変化させることや、やり切るのが難しいことも実行できるようになると思います。**変化させるのは大変なので、支え合うことは非常に重要です**(石川県・私立高校・教務担当・30代)